

●行政視察（福島県西郷村） 金川 孝幸

6月26日（木）～6月28日（土）

西郷村は全国の殆どの自治体で少子高齢化や人口減少に悩んでいる中、人口は増加し、高齢化も進んでない。大きな要因は、東北新幹線の新白河駅と東北自動車道の白河ICが村にある立地を活かした企業誘致や移住定住策が大きな要因である。村としては、特定の施策ではなく、複数の分野にわたる施策を総合的に展開してきた結果である。若年層の転入については、移住支援や新生活支援だけでなく、保育、教育、仕事の確保、生活の利便性向上など施策間の連携と暮らしやすさの向上を視点にした施策が結果として表れている。

移住者と地元住民のとのコミュニティの確保は、地区ごとに移住者が地域や地区に溶け込める努力を行っている。

大手企業の信越半導体やメガソーラーの整備などによる税収の増加・安定しているのと、様々な施策により人口の減少が無いことが大きな要因である。

商工分野を中心とした様々な連携と、物価高対策支援交付金対応などの委託のほか、村の一大イベントの「にしごう祭」は商工会を中心に実施している。

西郷村でもデマンド交通事業を実施しています。利用者は月千人、年間では一万三千人の利用がある。八丈町との違いは運行ダイヤがあり朝7時から午後5時30分まで30分間隔で運行している。村民以外も利用できるが料金を高く設定している。村の負担も年間三千万円ほど掛かっている。

人口増加の要因は交通の便の良さと地価の安いことが大きく影響しています。これは八丈町にも共通していますが、物流に関しては大きな違いがあります。八丈町でもIT関連の企業誘致など可能性があり、大変参考になりました。

村長をはじめ、商工会関係者との交流会では、伐採木を利用したバイオマス発電に取り組んでいる事例など興味のある話も聞け、大変有意義な視察となりました。